

令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 紀央館高等学校

学校 校長名： 久原 享

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

人間尊重の精神のもと、民主的で平和な社会の形成者として基礎・基本をしっかり身につけ、自信と誇りを持って社会に飛躍し、人々に信頼され地域貢献できる人間を育成する。自ら目標を設定し、希望を持って自ら学び続け、充実した生き方を身につける(希望)。基礎学力及び人間としての基本的な姿勢、態度、習慣等を確実に身につける(徹底)。自己と他者の価値を認め合い尊重することのできる心を身につけるとともに、人に愛され、信頼される調和のとれた人間性を磨き続ける(価値)。

学校評価の公表方法

- ・毎月のマンスリータイムズや、季刊の新成会便りなどで記事として掲載する。
- ・学校運営協議会での確認。
- ・ホームページ等で広く公表する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	基礎学力向上と、自ら設定した目標にむけ主体的・協働的に学ぶ姿勢を育てる特色ある教育を展開する。	B	日々の授業の充実と ICT 機器を有効活用した授業展開の工夫	生徒による授業アンケートと参観授業	A	ICT 機器の有効活用はさらに進展がみられた。	日々の授業の充実と、生徒の授業への意識を改善する。特に考查時の欠席については証明する書類の提出など、厳正な手続きを整備する。
			基礎・基本的な知識・技能の着実な定着と成績不振者への補習	成績不振者数の推移と欠席・欠課時数	B	コロナ禍で欠席・欠課時数は減少しなかった。	
			大学進学希望者により高い目標をもたせ目標の実現を支援	大学入学共通テストを受験・利用する生徒数	C	大学進学を希望する生徒数は増加している。	
2	地域に開かれた学校作りを行うとともに、地域に愛され地域に貢献できる人材を育成する。	A	PDCA サイクルによる CLT(地域研修期間)の充実	生徒による CLT のレポート・発表内容	A	実施することができ、校内での発表も行い成果があった。	今年度も制約の多い中、地域からの援助もあり、いくつかの成果のある取組が行われた。就職も地元志向が強く、地域を支える人材の育成に貢献できた。
			地域住民や団体などとの協働活動の積極的な推進	活動の充実と新たな活動への取組状況	B	制約が多い中、新たな取組も行われ一定の成果があった。	
			地元企業への就職斡旋と支援	地元企業への就職率の向上と離職率の抑制	A	地元企業を中心に県内への就職が多数を占めた。	
3	健康で安全な生活を営む力を養成し、自他の命と権利を尊重し、多様性を認め合う社会の形成者としての資質を育成する。	A	平和・人権講演会の計画・実施および防災教育の計画・実施	講演会・避難訓練実施後の生徒の感想文	A	生徒は真面目に取組、意識・知識ともに成果があった。	制約が多く、通常通り実施できない中、工夫しながらの企画・実施となった。生徒は意欲的に取組み、高い意識を持ち、知識を深めるなど成果となってあらわれている。
			現職教育の実施と必要十分なケース会議の開催	生活アンケート・保健室使用状況等の検証	B	分掌や年次の連携により、支援体制を確立し実施した。	
			個人面談・保護者面談の実施生徒個々の状況を適切に把握	キャリアパスポート・つなぎ愛シートの作成	B	必要に応じ、面談や家庭訪問を行い、状況把握に努めた。	
4	自ら学び続け、自身の資質を向上しようとする教員を援助するため、組織的な学校運営を充実する。	B	教員個々人の能力を高めるため目標に沿った研修の計画実施	校内外での研修内容・成果の検証と参加状況	A	経年研修の校内研修を中心に意欲的な研修が行われた。	教職経験年数に該当した中堅教諭が企画する校内研修が意欲的に行われた。校内での意図的・組織的な研修や公開・研究授業を計画実施していきたい。
			研究授業や公開授業などの実施と協議	公開授業や研究授業の実施数と前年比	C	各教科での公開授業や研究授業を行った。	
			校務分掌および各種委員会の見直しと組織改編	組織効率化の進捗度教員のアンケート調査	B	実態に応じて、委員会の統合を行った。	

学校関係者評価（2月18日実施）

- ・スクールポリシーにあるように、今後も生徒が基礎・基本を身につけることを大切に地域社会の担い手となる人材を育てる環境を整えていってほしい。今後とも、学校の特性を活かし、様々な方面で一人ひとりの生徒が達成感を感じることができる学校であってほしい。
- ・今年度の卒業生は入学時よりコロナ禍の中での高校生活であった。平常時の高校生活を送らせてやれなかったことは大変残念であるが、制約の多い中での工夫した活動によって通常では得られなかった知識を得て、経験値を高めていった。ICT の利用促進は顕著な事例であり、今後も試行錯誤を繰り返し、より効果の高いものにしていかねばならない。
- ・生徒の服装や街中でのマナーなどがとても良いと感じる。自転車の登下校も概ね良好である。
- ・CLT（地域研修期間）の生徒レポートに素晴らしいものが数多くあった。地域での主体的な調査を通じ、地域の人とふれあう中で、生徒たちに地域に何か貢献出来ることはないか考えさせる取組を続けていきたい。
- ・関係者を除き、学校について知られていない現状があるため、学校の様子を地域に広く知らせる方策を検討する必要がある。線路側、主要道路方面に生徒の活躍を示す垂れ幕を設置したことは、学校のよい PR となっている。今後も地元新聞や学校 HP 等を活用しながら、生徒たちの活動を発信していくことが生徒たちの活動を活性化させることにつながると思われる。
- ・天文公園のピアノのデコレーションは、大変よい取組であった。次年度も地域との共同による取組をおこなっていききたい。工業技術科の技術や設備を活かして小中学校や幼稚園、自治会などに制作した製品を提供してみるなど、生徒たちも交えて新たな取組を企画していきたい。
- ・学生の常識を逸脱した行為が報道されている。家庭との連携のもと、軽率な行為が結果的に社会からの批判を受け自身の信用を失墜し、経済的なリスクも負うことを熟知させていく必要がある。